

## 歓迎公演

蟹山伏

## 京都府立嵯峨野高等学校 〈狂言部〉

京都府立嵯峨野高校は、1941年、篤志家の寄付により「和敬清寂」を建学の精神として創立しました。現在、スーパーサイエンスハイスクールやユネスコスクールの指定を受け、志をもって人生を主体的に生きる生徒を育て、国際社会にリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す「グローバル・リーダーシップ・イニシアティブ」の取組を進めています。国際社会に生きる上でのアイデンティティとして、能楽、茶道、古典文学や伝統工芸など京都の伝統文化に関する教育活動を重視しています。

平成21年度、京都府の「古典の日」推進事業をきっかけに大蔵流狂言師十四世茂山千五郎先生の御指導による狂言の取組が始まりました。平成28年度から狂言部として活動しており、これは高校の部活動としては全国唯一です。文化祭などでの上演や毎年12月に開催する能舞台での狂言会は、嵯峨野高校の新たな伝統となっています。全国高校生伝統文化フェスティバルや今宮神社御旅所能舞台での奉納狂言など、校外での発表も多いです。

### 演目紹介・注目ポイント

山伏と強力の主従が、近江の蟹ヶ沢で異形の者に出会います。「二眼天にあり、一甲地につかず、大足二足、小足八足、右行左行して遊ぶものの精」と名乗るので、さては蟹の精、今晚のおかずにしてやろうと強力が打ちかかるのですが……。

狂言の中には喜びや悲しみ、怒りなどの感情が生生きと息づいています。私たちはそれを自分の心で感じ、演技として表現することを大切にしています。皆さんにも、今も昔も変わらない感情を味わい、笑っていただきたいと願っています。



## 特別枠

神楽囃子

## 広島県立湯来南高等学校 〈和太鼓部〉

広島県広島市佐伯区湯来町は、広島市の西部、砂谷台地に位置しています。湯来町内には3つの神楽団があり伝統芸能が盛んな土地です。本校は昭和60年に創設され、全校生徒40名余りの生徒が在籍しています。和太鼓部は本校設立20周年を機に創部され、学校行事のほか、地域のお祭り、幼・小・中・高等学校、福祉施設、公民館など、諸施設での行事に参加しています。日頃から地域の方々の支援に支えられ、喜びやパワーを頂き日々活動をしています。

結成からこれまで「全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門」「こくみん文化祭」「けんみん文化祭和太鼓フェスティバル」に参加しました。令和2年～4年、コロナ禍による活動制限の中、地域での演奏活動を継続し、「第28回天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝」の応援演奏を行いました。

### 演目紹介・注目ポイント

中国四国地方に伝わる神楽を和太鼓で表現した曲です。広島県を中心に活動をしている太鼓本舗かぶら屋によるオリジナル曲です。曲の最後に神楽の祝い唄で奏者が舞を演じます。

学校や地域の方々の支援に支えられて、このフェスティバルの出演が叶いました。広島県立湯来南高校和太鼓部は、日頃の感謝の気持ちと渾身の力で京都から発信します。和太鼓、笛、唄、舞の舞台の編成で神楽を表現します。



# 吟詠剣詩舞部門

演目

(構成) 剣舞

「鹿児島を先人を偲ぶ」

## 鹿児島県高等学校文化連盟

## 吟詠剣詩舞鹿児島県合同チーム

鹿児島県合同チームは、「2023かごしま総文」参加をきっかけに県内5校から7名の生徒が参加して結成されたチームです。今回の全国高校生伝統文化フェスティバルには、進路や学校行事の関係から参加できないメンバーがおり、3名で参加することとなりましたが、少数精鋭で練習の成果をご披露したいと思います。今回参加できなかった仲間の分まで頑張りますので、ぜひご覧ください。

鹿児島県内で吟詠剣詩舞に関連する活動をしている高校生は非常に少なく、県域面積が広い上に離島もあるため、普段は学校や個人単位で活動しています。合同チームとして全国高等学校総合文化祭に参加できたのは昨年と今年の2回ですが、地元開催の全国高等学校総合文化祭をPRするために色々な機会をいただいて発表の経験を積んできました。また、メディア等にも何度か取り上げていただき、全国高等学校総合文化祭だけでなく吟詠剣詩舞の事を知っていただくお手伝いのできたのではないかと考えています。

### 演目紹介・注目ポイント

鹿児島の先人達を取り上げた剣舞三題をご披露します。それぞれ、江戸時代中期に宝暦治水の指揮を執った薩摩藩家老平田靱負、明治10年の西南戦争に立ち上がった薩摩の若者、彼らと最期を共にした西郷隆盛をテーマとしています。

平田靱負は、次に全国高等学校総合文化祭を開催する岐阜県と鹿児島県のつながりの象徴として取り上げました。西南戦争はご存知の通り日本最後の内戦ですが、そこに参加した人々の想いや覚悟を剣舞で表現します。



# 日本音楽部門

演目

おでゅっせいあ

ODYSSEY

## 静岡県立三島北高等学校 〈箏曲部〉

静岡県立三島北高等学校は、静岡県東部に位置する全日制普通科高校です。創立123年という長い歴史を持ち、「自律」を校訓とした「醇美」な校風のもと、生徒一人一人が互いに切磋琢磨しながら学校生活を送っています。近年では「イノベティブなグローバル人材の育成」を教育目標の主眼に据え、英語教育やSDGsをテーマとした課題研究を中心に、グローバルリーダーに必要な能力の育成を目指しています。

2005年に全国高等学校総合文化祭青森大会に初めて出場して以来、15回全国大会に出場し、そのうち優良賞5回、文化庁長官賞5回、文部科学大臣賞1回の受賞を果たしました。また、大会への出場だけでなく、地域のさまざまなイベントに出向いて演奏し、ご来場のお客様にお箏の体験をしていただくなど、多くの方々に箏を身近に感じてもらえるよう、私たち自身が音を楽しんで活動しています。

### 演目紹介・注目ポイント

この曲のタイトル「オデュッセイア」は古代ギリシャの冒険物語をもとに名付けられたものです。未知の世界へ旅立つときの夢と希望、不安と期待、困難の克服と祈りといった様々な感情を重ね合わせて表現します。

16人で約1年間この曲に向き合ってきました。曲の表情をいかに表現できるかを考え、全員で音の強弱やメロディーのつながりなど、細かい部分まで追求してきました。私たちの団結力と練習の成果を感じていただきたいです。



## ■ 郷土芸能部門（伝承系）

演目

えっちゅうごかやまみんなよう  
越中五箇山民謡

### 富山県立南砺平高等学校 〈郷土芸能部〉

富山県立南砺平高校は、世界遺産の合掌造り集落があり、「民謡の宝庫」として知られる越中五箇山にあります。全校生徒約70名の小規模校ですが、郷土芸能部やスキー部をはじめ多くの生徒が全国の舞台で活躍しています。地域に密着した学校で、全国的に珍しい小中高合同運動会は一大行事となっています。さらに、総合的な探究の時間では3年間を通して地元五箇山について学ぶことができ、深い郷土愛が育まれる環境が整っています。

富山県立南砺平高校郷土芸能部は平成元年に創部され、「越中五箇山民謡」の継承と魅力発信を目的に活動しています。全校生徒の約半数が所属しており、地元保存会の熱心な指導のもと日々練習に励んでいます。地域の福祉施設や祭礼での公演といった地域に根ざした活動のほか、全国高等学校総合文化祭の常連校としても知られています。今年の同大会では優良賞を受賞し、一昨年の優良賞、昨年の最優秀賞・文部科学大臣賞に続く3年連続の入賞を果たすことができました。

#### 演目紹介・注目ポイント

1曲目の「こきりこ」は五穀豊穡を祈り歌われてきた日本最古の民謡といわれています。2曲目の「五箇山追分」は牛と共に峠を越える際に唄われた民謡です。冒頭の「なげ節」にもご注目ください。最後の「麦屋節」は平家の落人伝説に基づく有名な民謡です。

越中五箇山は「民謡の宝庫」と呼ばれるほど、多くの民謡が唄い継がれてきています。今回はその豊富な曲目から3曲披露します。それぞれの曲が持つ魅力を、最大限に生かしながら、五箇山の美しい情景が伝わるように心を込めて披露します。



## ■ 郷土芸能部門（和太鼓）

演目

絆～和太鼓組曲  
「海嶺」より～

### 日本福祉大学付属高等学校 〈和太鼓部〉

本校は愛知県知多半島の先端、美浜町にある男女共学の普通科高校です。「自由・創造・活発・連帯」の校風の下、自分の本当の力を見つけるために様々な活動をしています。創部35年目を迎える和太鼓部「楽鼓」は、公演活動を通じて地域の人々と共に成長してきた部活動です。

全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門に32年連続出場しており、今年の鹿児島大会では優秀賞・文化庁長官賞をいただきました。これまでにイギリス、韓国、台湾、中国、アメリカでの海外公演を成功させてきたほか、東日本大震災の4ヶ月後から毎年、宮城、福島への訪問活動を続けています。また、地元の小学生へ和太鼓を教える活動は20年を超え、私たちの活動の軸のひとつになっています。

#### 演目紹介・注目ポイント

和太鼓組曲「海嶺」は、私たちの地元を舞台とした三浦綾子さんの小説『海嶺』を題材にし、タイトルも作者の遺族から頂いています。江戸末期、14歳の音吉は初航海に臨みますが途中大嵐に遭遇、生き残るため帆柱を切り倒し太平洋をさまよいます。アメリカに漂着し5年の後、奇跡的に日本に帰る機会を得るものの、鎖国のため帰国を断念。音吉らは異国で新しく生きるという決断をします。

共に困難を乗り越えて生まれる「絆」、そして「絆」があるからこそ次の壁にも立ち向かっていける。私達が大切にしているものを、音吉の人生に重ねて表現します。



## ■ 歓迎公演

演目

まぼろし

幻

## 京都府立南陽高等学校 〈マジック部〉

京都府立南陽高等学校は、京都府木津川市にあり、創立38年を迎えました。私たちは中学生5人と高校生8人で活動しており、部員全員が公演を良いものにできるように、日々練習に励んでいます。週2回の練習では、マジックやジャグリングの技を互いに教え合ったり、OBの方に指導していただいたりして精度を高めています。これからも地域の方々に楽しい公演を披露できるように精進していきます。

学校が休みの日に、地域の子ども会や老人会、夏祭りにも呼んでいただき、ボランティア活動としてマジックやジャグリングを披露しています。また、年に一度の文化祭での公演も本校のビッグイベントの一つとなっており、学校の内外から多数の応援の声をいただいています。部員全員が日々の練習の成果を発揮できるように、また観客の方々に楽しい時間を提供できるように、毎公演を大切に取り組んでいます。

### 演目紹介・注目ポイント

他の学校にはあまりないマジック部。先輩たちの姿に憧れ、何回も練習し、パフォーマンスを用意してきました。皆さんにより楽しんでいただくために、詳しい内容はお伝えできません。私たちの不思議なマジックショーをぜひお楽しみください。

複数人で行う大がかりなマジックです。複数人で行うからこそタイミングが合わずに上手くいかないこともありましたが、何度も練習を重ね、より良いパフォーマンスができるようになりました。剣を使った迫力ある演出にもご注目ください。

